

ふるさと教育 取組事例

| | | | |
|--|--|-----------------------------|------------------------|
| 学校名 | 松江市立生馬小学校 | | |
| 学年 | 主な教科等 | 主に関わる単元名 | 活用した教育資源 (ひと・もの・こと) |
| 3・4 | 総合的な学習の時間 | 松江清心養護学校の友だちを招待してふれあい集会をしよう | 松江清心養護学校小学部児童、先生 |
| ねらい | 校庭の一部を共有している松江清心養護学校を知り、そこに通う児童や先生方と共に楽しんだり触れ合ったりする中で、自分ができることを考えたり共に生きていこうとしたりする態度を育てる。 | | |
| <p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期は、「松江清心養護学校の友だちとなかよくなるよう」をテーマとして、松江清心養護学校（以下、松江清心）の先生から、学校での一日の生活などの紹介をしていただいた。また、松江清心の多くの子が利用している車椅子の操作について教わった。 ・ ふれあい集会までに行った2回の学校間交流では、松江清心児童との自己紹介、ゲーム交流を行った。実際に松江清心の児童の車いすを押したり、ゲームを共に楽しんだりした。 ・ ふれあい集会に向けて、班ごとのゲームや出し物を企画し、2回の打ち合わせ会で松江清心の先生方にプレゼンを行った。そこでもらったアドバイスを生かしてふれあい集会の準備を進めた。 ・ ふれあい集会では、生馬小学校体育館に松江清心の児童と先生方に来ていただき、グループごとの企画に参加してもらった。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人はそれぞれかけがえのない存在であることに気づき、共に生きていこうとする態度を育てる。 ・ 松江清心の友だちとふれあい、自分ができることを考えようとする態度を育てる。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい集会や関連する学習を通して障がいに対する正しい理解と知識を深める。 ・ 自分たちの企画したゲームや出し物を実現するために、課題を解決する方法を考えたり、松江清心の先生方に伝えるよう説明や図や絵を用いた表現をしたりする。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接出会って共に楽しむ時間を作ることで、相手の特性や動きに合わせて共に動こうとしたり、表情を見て声掛けしたり、積極的に関わろうとする姿が見られた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの思いつかなかった課題を解決するために、試行してデータを取ってゲームの方法を決めたり参加者全員が楽しめるように工夫したりする、課題解決力や思考力が身についた。また、4年生は、班を運営するためのリーダー力も身についた。 ・ 道具を使ってジャンケンなど共に楽しんだり、選択してもらって相手の意思を知ったり、代替の方法を考えることができた。 ・ 車椅子の操作だけではなく、動かす前の声掛けの仕方、乗っている人が怖くないようにするための車椅子の操作上の配慮など、相手の気持ちに寄り添う支援の仕方を学ぶことができた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数年ぶりに対面での交流が再開できた。子ども達の活動の裏では、職員同士の打ち合わせや車椅子の児童の輸送、医療的ケアなど松江清心の先生方の支えが必要である。班の人数や時期、交流の方法等修正しながら、活動を継続していきたい。 | | | |

